

日本GAP 9 仙台支部報

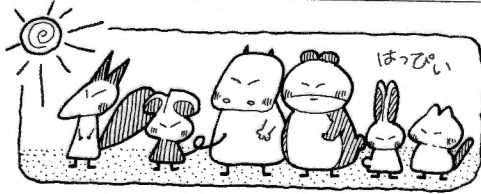


No.

IGAP-JAPAN SENDAI INFORMATION

頒価 無料/送料60円(切手可)

○編集人：安藤澄雄
○発行人：笠原弘可(仙台支部代表)
申込先 〒980 仙台市東10番丁1
国鉄アパート1-18



A Happy New Year!

日本GAP仙台支部代表 笠原弘可

仙台支部報編集者 安藤澄雄

明けましておめでとうございます。

昨年中は何かとお世話になりました。特に11月14日に開催した仙台・山形合同支部大会におきましては、全国各地から多数のご出席をいただき、衷心より御礼申し上げます。

相変わらず落ち着かない世相ではありますが、地に足を着けながらも少しずつ天空に向かって心を拡げていきたいと思っています。

皆様のご健康と、良き年であることをお祈りして新年号のあいさつといたします。

いよいよ1983年です！(特に意味はない)皆様にとっても昨年は素晴らしい年であったに違いありませんが、どんなに素晴らしいことがあっても、もっと素晴らしいことを、積極的に作

り続けようではありませんか。その第1歩として、『仙台支部報』に投稿しましょう！

先日は支部報を送っていただきありがとうございました。

私も旅行(第4回日本GAP海外研修旅行「エジプト・ヨーロッパ宇宙考古学の旅」)に参加して本当に良かったと思っています。第1回目も2回目も申し込みはしたのですが、一人で行くことの不安やお金の心配、その他の理由で断念したのでした。今回も誰か一緒に行く友達を探していたのですが、いませんでした。

私は自分自身に言い聞かせました。今、不安を覚悟の上で思い切って行かねば一生行くことができない。年が行くにつれて不安は大きくなるに違いない、と。今は一人で行って良かったと思います。でなければ、箱入り娘のように家から一歩も出ずにいた私は井の中のカワズになっていたことでしょう。私はこの旅行で大いに反省し、そして

広い世の中の勉強ができたことをうれしく思っています。

私は2年以上も前から「私は何て幸せなのでしょう」と毎日つぶやくことにしています。したら最近本当に幸せになってきたのです。これはもちろん私自身の考え方が変わったことが大きな原因の一つでしょう。

以前の私は幸せな人を見てはうらやましく思ったものですが、今では全然他人をうらやましいと思わなくなりました。それはカルマの法則のことを考えたからです。すべてが自分自身の行いにかかっているのです。他人をうらやましいと思うのなら、そのようになれるように自分を改めねばなりません。

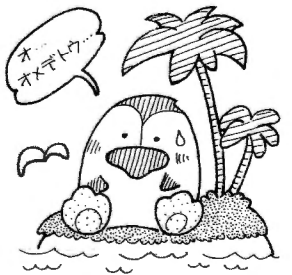
それから、最大の幸せは目が見えることだと思ったのです。もし目が見えなかったら私はきっとこう神様をお願いすると思います。「神様、私の目を治して下さい。他に何も要りません」けれど私は目も見えるし手足も自由に動かすことができるし、本当にこんな幸せなことはあり

深さを 知った日

—松戸市 吉沢聡雄—

先日の仙台・山形合同支部大会では大変お世話になりました。素晴らしい大会で本当に行って良かったと思っています。

GAPのねらいの底の深さを



ません。

「他人に親切にしよう」「他人を束縛しないようにしよう」今はこの二つを心がけています。またいつか一緒に旅行に行けるとよいですね。さようなら。(安藤あてのお手紙より)

認識させられた一日でした。今まではGAP会員ながら全くわかっていなかった気がしました。頭でわかったぶん、実践がともなっていないので、これから少しずつでも努力してゆきたいと思います。

支部の皆様によりしくお伝えくださいませ。

ありがとうございます!

第3回 日本GAP 仙台・山形合同支部大会

昨年11月14日(日)、仙台にて開かれた大会には、世話役の消極的な予想に反して40名を超す方々においでいただき、盛況を極めた。スペースの都合で詳細

をお伝えできないが、皆様の温かいご協力に感謝するとともに大会開催の重要性を改めて考えさせられた。今年の米沢市(山形)での大会も是非ご参加を!

昭和58年度 日本GAP関係行事予定

3月22日(日) - 松山支部大会
4月24日(日) - 名古屋支部大会
5月1日(日) - 静岡支部大会

5月22日(日) - 山形・仙台 合同支部大会

6月(日時未定) - 札幌・旭川 合同支部大会
7月17日(日) - 大阪支部大会
8月13日(土)~21日(日) - 「エルサレム宇宙考古学の旅」
8月28日(日) - 秋田支部大会
10月9日(日) - 日本GAP総会
11月20日(日) - 熊本支部大会

チルドレン・パワー

船橋市内3番目のマンモス校
ということで、1年生だけでも
240名いる。その中の約40名と
共に多くの体験をさせてもらっ
ている。

彼らと生活していると、宇宙
の法則の中で、^{*}類は類を呼ぶ、
という法則ほどおもしろいもの
はないという気がする。私のク
ラスに集まったどの子もやはり
類をもって集まっているように
思えるのだ。とにかく元気盛ん
で、ワンパク坊主で、授業中だ
ろうが給食中だろうが、掃除の
最中だろうが、まるでどこかの
市場のセリにでもいるかのよう
なにぎやかさである。私もこれ
には脱帽どころか、服を脱ぎ捨
てたくなるほど手こずっている。

しかし子どもには子どもの表
現があり、その貴重なチルド
レン・パワーを抑えつけても無
理だし、もしできたとしても大
きな反動が返ってくるだけだ。
むしろ、そうした新鮮なパワー
をこちらで有難くもらい受け、
それを応用して建設的なことが



できぬものかと思案中である。

転生してきた人々

考えてみれば、現在何らかの
必然性により私と共にレッス
ンを積んでいるこの子どもたち、
私が学生のころに転生した人た
ちだと言える。すなわち地球の
時間でいえば6、7年前に転生
を果たした人々と、私は今いる
わけである。

心を中立に保ち、子どもたち
ひとりひとりの行動や表情、特
に目を見ていると何か不思議な
ものを感じる時がある。もちろ
ん彼らを透視できるほどの器用
さは持ち合わせていないので、
何となく感じ取るという程度の
ものではあるが、子どもらの内

部に秘めたる偉大なるものにア
ッと驚かされる時がある。その
意味で、私にしてみれば各人が
私の師である。

根っからの楽天家の天才もい
れば、純真極まりなき子もいる。
この子はきっと過去世において
ピエロだったに違いないと思っ
てしまう子もいる。ひとりひと
りの子を見ても奥に秘めたるワ
クワクするほどのパワーを感じる。
このパワーに触れるときは
私の心を意識に開放した時であ
り、そのとき私は大いなる喜び
で全身が満たされ、自分がこう
してここにいられることに心か
ら感謝したい気持ちになっ
て、おのずと顔に微笑を浮かべて
いる自分に気づく。

に頼っている。私の場合1年生
を持ち、生活の初歩の段階から
教え続けねばならなかったが、
これは非常に忍耐を要するもの
であった。掃除、給食、手洗い、
身の回りの整理、着替え、それ
らすべてを教え込まねばならな
い。私自身も完全にできていな
い物事を、あたかもその道のエ
キスパートのごとき顔をして教
え込まねばならない。しかし、
私の指導力不足も手伝って、な
かなうまくゆかなくなると、
こちらも忍耐力が限界線を越え
「何度教えればわかるんだ！」
と叫んでしまう。悲しきかな掃
除は未だにできなくて、毎日頭
を痛めている。

現象の雑多で細々したこと
に心が完全に自制力を失い、子
どものアラだけが目につき、つい
ついケチをつけてしまう。する
と子どもは正しく行動するど
ころか逆に反抗心を強化させ、こ
ちらのティーチャーズ・パワー
を超えるパワーで反撃してくる
のだ。現代っ子は非常にはつき
りとした反応を示してくる。

一方、心を平静に保って、子
どもたちの行動や言い分を忍耐
強く聴いてみると、それは筋の
通った場合が多く、時にはこち
らの否を突かれたり、きらめく
ほどの素晴らしい言葉をポツリ
と与えてくれる時がある。する
と子どもが好きになり、何とか
もっと近づきたくなる。これが
いわゆる^{*}理解、であり^{*}認め
てやること、であろう。これが
実に人間と人間とを結びつけ、
遂には一体化させる根本要素に
なるのではあるまいか。実際、
大人でもほめられたりおだてら
れたりすればどっでもうれし
いものだ。

しかし、認めることはかなり
難しく、こちらが心を拡大し、
余裕を持たぬ限りではできない
ことはない。真の教育などわかろう
はずもないが、それは相手を理
解し、認めることから始まるの
ではなからうか。それは同時に

自己の心の拡張と自己訓練とも
深くかかわっていると思われる。

〜編集後記〜 ◎今回はスペースがなくて何も書け…(A)

葦原

***** 疑問 ***** 笠原弘可

何故だろうか?と思うことがよくある。何故私
はここで、こんなことをしているのだろうか?と。奇妙である。
同時に、世の中の人々もやはりそう思っているに違いないと推測
する/十八十色、百人百様、という。だから、何故だろう、と思
う人もいれば、思わない人もいる。ますます不思議である。同じ
人間じゃないか。まして同じ日本人じゃないか。大体同じ顔をして、
大体同じ体形をして?大体同じ物を食べて、されば、大体同
じ考えを持っても良さそうだ。そして同じGAPである。せめて
90%位は似かよってもおかしくない。しかし、これが違う。ある
人はA現象を重視し、ある人はB現象を重視する。実に面白い/
反覆想念と、リラクセーションの関係は、常に私の頭にあった。
私の生来の考えとして、リラクセーションが非常に大事である
という観念があった。それはいまだ自己のものとなっていたかどう
かは別にして、テレパシー、透視の能力にはそれが重要であるこ
とは分かっていた。最初の透視体験は横たわり、見よう見ような
どと力んでいない時であったし、テレパシー現象が起こるのも、
相手の考えを読みとろうなどと作為しない時である。反覆想念は
明らかに意図的な行為である。そこで私は迷った。力むと、いわ
ゆる啓示というものがこなくなるような気がした/先日、駅のある
個室で、誰も決して入って来ないある個室で強烈に印象が起こ
った。それこそ父性原理と母性原理なのだ! 両方必要なのだ。
書物を読むだけでこんなことは分かってしまう人と、そうでない
人もいるのだ。

認めること

子どもには無限の可能性が秘
められている。それをうまく引
き出せるかどうかは子どもと接
する大人にかかっていると言っ
ても過言ではない。小学校1年
生といえども、既に両親の想念
を大量に浴びながら6、7年を
この地球上で生活し、いつの間
にか「子は親の鏡」となってい
る。子を世話する者の動機がい
かに重要かは論を待たないが、
教師にも大きな責任がかかって
くる。

大人には必ず子どもの時期が
あったし、子どももいずれは大
人に成長する時が来る。そして
どの人間も転生を繰り返して生
命を持續するのであるから、全
く子どもと大人の区別はなく、
それは現象の一変化にすぎない
だろう。

とはいえ、実質的には子は大
人に依存し、親や教師に全面的